

めぐみイエス・キリスト教会

2025年5月11日(日)第二主日礼拝

午前10時より

週報「通算第758号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌258「墨よりも黒き心なれど」p. 402

【交読文】 No.54 ヨハネの福音書14章(抜粋) p. 922

【賛美Ⅱ】 新聖歌208「イエスは愛で満たす」 p. 314

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「ラザロ」

【聖書朗読】 ルカの福音書9章23節～27節(p. 131下段)

【礼拝説教】 《主イエスに従う人生とは？》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書9章23節～27節)

9:23 イエスは皆に言われた。「だれでも私について来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負って、私に従って来なさい。

9:24 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、私のためにいのちを失う者は、それを救うのです。

9:25 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の益があるのでしょうか。

9:26 だれでも、私と私の言葉を恥じるなら、人の子もまた、自分と父と聖なる御使いの栄光を帯びてやって来るとき、その人

を恥じます。

9:27 まことに、あなたがたに言います。ここに立っている人たちの中には、神の国を見るまで、決して死を味わわない人たちがいます。」

●ポイント1. 十字架を背負うとは？

※マルコの福音書15章21節「ヴィア・ドロローサ」 (新約p.103)

15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフオスの父で、田舎から来ていた。

●ポイント2. 自己否定とは？

※ローマ書6章6節～8節「キリストとともに」 (新約p.306)

6:6 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。

6:7 死んだ者は、罪から解放されているのです。

6:8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることにもなる、と私たちは信じています。

●ポイント3. 「人はたとえ全世界を手にいれても」という事とは？

※ルカの福音書12章15節～21節「ある金持ち」 (新約p.141下)

※マタイの福音書6章24節「山上の垂訓において」 (新約p.10)

6:24「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。」

◎先週のメッセージ【第一回目の受難予告】

《主イエスは公生涯において、三度の「受難予告」をされています。その第一回目の受難予告が本日の聖書箇所となります。マタイは、「ピリポ・カイサリア」にて行なわれたと言っています。また、ペテロが主をいさめ、そして主がペテロを厳しくいさめる場面を書き記しています。『ペテロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。「主よ、とんでもないことです。そんなことがあなたに起こるはずがありません。』と。

伝承では、ペテロは主よりも年上であったと伝えられています。ユダヤは年功序列を大切にす国民ですので、もしペテロが主よりも年下であったとしたら、こんな行動を取ることはなかったと思うのです。主は、厳しくペテロをいさめます。

「下がれ、サタン。あなたは、私をつまずかせるものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

弟子たちは、主イエスにお会いしてから、すべてを捨てて従って来ました。特にペテロは、弟アンデレと共にガリラヤ湖の漁師の網元でしたが、その職と地位を手放し、主に自分の人生を賭けたのです。

その主が、「エルサレムで長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺される」と言われたのですから、たまったものではありません。つまりペテロは、自分自身のことを思ったのです。

しかし、これは当然だと思えます。弟子たちは、主イエスのことを、神様が遣わされたメシアであって、神の力により、ローマ帝国を滅ぼし、イスラエルを解放して下さると信じていたからです。この時には、まだ弟子たちの霊的な目は開かれてはいなかったのです。

弟子たちが、聖書と照らし合わせて、そこに書かれた預言が主イエス様によって成就したことを理解したのは、聖霊降臨日の後のことなのです。まさしく、生ける神のみ言葉は、霊的な言葉であって、御霊によらなければ、人は理解することが出来ないのです。》

◎お知らせ

※次回は、2025年5月18日午前10時より、平常通りに行ないます。